学校自己評価構築シート

No. 1

評価基準　80%未満～60%以上・・B　0%未満～50%以上・・C　50%未満・・D　80%以上・・A

評価領域	評価項目		評価指標	平成21年度 肯定的評価%	平成21年度 評価	平成22年度 肯定的評価%	平成22年度 評価	平成22年度 総評価	平成23年度 肯定的評価%	平成23年度 評価	平成23年度 総評価	平成24年度（前期） 肯定的評価%	平成24年度（前期） 評価	平成24年度 総評価	平成24年度（後期） 肯定的評価%	平成24年度（後期） 評価	平成24年度 総評価	平成25年度（前期） 肯定的評価%	平成25年度（前期） 評価	平成25年度 総評価	平成25年度（後期） 肯定的評価%	平成25年度（後期） 評価	平成25年度 総評価	平成26年度（前期） 肯定的評価%	平成26年度（前期） 評価	平成26年度 総評価	平成26年度（後期） 肯定的評価%	平成26年度（後期） 評価	平成26年度 総評価	平成27年度（前期） 肯定的評価%	平成27年度（前期） 評価	平成27年度 総評価	平成27年度（後期） 肯定的評価%	平成27年度（後期） 評価	平成27年度 総評価
教育課程・学習指導	思考力・判断力・表現力の育成	外部（生徒）	⑨学校の授業は、わかりやすく楽しい。	80.0	A	77.1	B	B	65.0	B	B	58.8	C	B	59.9	C	B	55.6	C	B	54.8	C	B	61.2	B	B	62.7	B	B	79.5	B	B	75.3	B	B
			⑯私は，自分の考えを持ち，人に伝えようとしている。			66.6	B		64.9	B		61.8	B		65.9	B		66.9	B		68.1	B		71.5	B		74.1	B		68.2	B		72.5	B	
			⑰先生は，生徒のために新しいアイディアで，工夫をこらした授業や取り組みを行っている。	77.0	B	72.2	B		77.0	B		69.1	B		72.1	B		70.6	B		75.2	B		78.2	B		71.2	B		73.1	B		79.9	B	
			⑱私は，朝読書などの取り組みを通して，本に親しむ機会が増えた。			80.6	A		82.1	A		73.0	B		81.1	A		82.0	A		83.6	A		86.9	A		84.0	A		84.2	A		84.3	A	
		外部（保護者）	⑯学校は，生徒が興味関心を高めるような授業の工夫を行っている。	51.0	C	74.1	B		71.2	B		68.8	B		73.5	B		69.7	B		72.3	B		74.2	B		71.6	B		76.0	B		77.7	B	
			⑰学校は，生徒が自分の考えを持ち，表現する力を養う機会を効果的に持っている。			73.6	B		71.3	B		69.6	B		68.8	B		74.2	B		72.7	B		77.4	B		75.9	B		78.9	B		78.5	B	
			●H23:学校は，読書指導に力を入れ，国語力の充実に努めている。	63.0	B	77.7	B		79.9	B																									
		内部（教職員）	⑪あなたは，生徒の興味・関心を高めるような授業の工夫を行っている。（教員のみ）	86.0	A	96.7	A		88.9	A		100.0	A		93.3	A		73.7	B		94.4	A		82.4	A		94.7	A		89.5	A		80.0	A	
			⑫あなたは，指導方法や評価方法の工夫・改善を図り，研修や授業研究に取り組んでいる。（教員のみ）	62.0	B	100.0	A		89.5	A		88.9	A		73.3	B		73.7	B		77.8	B		88.2	A		89.5	A		84.2	A		84.0	A	
			⑬あなたは，教科や領域の中で，生きる力の育成に向けて，「受信」「思考」「表現」のプロセスを意識して指導や支援にあたっている。	57.0	C	100.0	A		87.0	A		71.4	B		76.5	B		68.2	B		76.2	B		68.4	B		65.2	B		83.3	A		72.4	B	
			㉓学校は，授業や様々な場面で，話し合い活動を取り入れ，言語活動の充実に努めている。	50.0	C	79.3	B		90.9	A		81.0	A		66.7	B		78.3	B		77.3	B		86.4	A		86.4	A		91.3	A		72.4	B	
	自他を思いやる心の育成	外部（生徒）	⑲道徳の授業で学習したことは生活に役立っている。					A			A	62.5	B	B	66.2	B	A	53.5	C	B	55.7	C	B	59.6	C	B	56.5	C	B	67.1	B	A	68.8	B	A
			⑳私は，自分や周りの人をとても大切にしている。	82.0	A	88.2	A		84.6	A		73.7	B		83.6	A		83.3	A		89.2	A		90.8	A		89.9	A		91.2	A		92.5	A	
		外部（保護者）	⑱学校は，道徳の授業を中心に，人権を大切にしたり，自尊感情を育む心の育成に努めている。						74.8	B		80.8	A		79.8	B		82.2	A		78.6	B		77.8	B		81.4	A		79.5	B		83.6	A	
			●H23:学校は，生徒が人権を大切にしたり，一人ひとりの個性を大切にしたりする心の育成に努めている。	74.0		79.1	B																												
		内部（教職員）	⑭あなたは，道徳教育を通じて，生徒の人権意識を高め，自尊感情を育むように努めている。									84.2	A		88.2	A		90.0	A		95.2	A		82.4	A		78.3	B		87.5	A		89.7	A	
			●H23:私は，生徒の人権意識を高め，他人を思いやる心の育成に努めている。	90.0	A	89.7	A		87.0	A																									
			⑮あなたは，道徳の授業に意欲的に取り組んでいる。（前期：学級担任のみ）									60.0	B		82.4	A		75.0	B		94.7	A		80.0	A		82.6	A		70.0	B		73.3	B	
	特別活動	外部（生徒）	㉑私は，係活動や生徒会（委員会）の活動に意欲的に取り組んでいる。	76.0		81.1	A	A	74.5	B	B	65.9	B	B	70.4	B	A	76.2	B	B	77.7	B	B	80.1	A	A	72.2	B	B	77.9	B	A	78.0	B	A
			㉒私は，時間いっぱい真剣に清掃に取り組んでいる。															77.2	B		80.8	A		83.3	A		66.3	B		84.0	A		83.3	A	
			㉓私は，部活動に意欲的に取り組んでいる。（入部者のみ）	74.0		82.5	A		89.2	A		83.7	A		84.0	A		89.9	A		91.9	A		93.3	A		87.6	A		87.5	A		88.8	A	
		外部（保護者）	㉖お子様の入部している部活動では，教職員と生徒が信頼関係のもとに意欲的に活動できている。（入部者のみ）	69.0	B	74.6	B		76.9	B		71.1	B		80.2	A		81.8	A		80.2	A		83.3	A		83.3	A		84.8	A		79.0	B	
			㉔学校は，美化活動に積極的に取り組んでおり，清掃が行き届いている。															88.8	A		85.6	A		86.9	A		89.9	A		93.0	A		92.1	A	
		内部（教職員）	㉔学校は，生徒が係活動や生徒会活動に意欲的に取り組めるように努めている。	90.0	A	89.7	A		90.9	A		71.4	B		72.2	B		73.9	B		77.3	B		86.4	A		73.9	B		80.0	A		83.3	A	
			⑥あなたは，部活動で生徒が意欲的に活動できるよう，生徒・保護者との信頼関係をつくるように努めている。（※顧問担当者のみ）	80.0	A	89.7	A		70.0	B		77.8	B		80.0	A		76.5	B		72.2	B		86.7	A		82.4	A		75.0	B		75.0	B	
			㉒学校は，清掃・掲示物の整備が行き届いており，校内美化に努めている。															65.2	B		68.2	B		90.9	A		73.9	B		84.0	A		93.3	A	
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	外部（生徒）	③私は，学校に行くのが楽しい。	85.0	A	80.1	A	B	74.8	B	B	77.8	B	B	76.8	B	B	79.2	B	B	81.1	A	B	85.9	A	B	81.1	A	B	83.8	A	A	85.9	A	B
			㉔私は，日頃からあいさつをしている。	74.0	B	82.3	A		71.5	B		68.1	B		70.3	B		71.8	B		75.3	B		76.5	B		71.0	B		77.6	B		76.4	B	
			㉕私は，学校生活のルールやマナーを守るよう心がけている。	77.0	B	79.8	B		77.4	B		74.7	B		79.2	B		78.5	B		81.3	A		89.2	A		85.1	A		90.8	A		89.2	A	
			⑫私は，早寝早起きをするなど規則正しい生活をしている。	72.0	B	73.1	B		80.6	A		73.5	B		76.5	B		81.0	A		86.0	A		84.3	A		84.9	A		67.0	B		59.7	C	
			㉖私は，学校・家庭・地域などで，人の為に役立つことをしている。			75.4	B		73.4	B		57.0	C		66.2	B		66.5	B		62.0	B		67.4	B		66.3	B		72.1	B		72.8	B	
		外部（保護者）	㉕お子様は，家族や地域の人などにあいさつができている。	66.0	B	65.8	B		68.5	B		65.1	B		67.5	B		68.0	B		73.1	B		73.5	B		72.4	B		84.1	A		83.9	A	
			⑨あなたは，子どもが早寝早起など，規則正しい生活ができるようにしている。	75.0	B	70.7	B		69.6	B		68.6	B		65.4	B		70.7	B		67.3	B		73.9	B		71.0	B		72.2	B		73.2	B	
			⑲学校は，生徒にルールやマナーについて指導している。			43.2	D		75.6	B		75.0	B		72.8	B		75.3	B		71.1	B		80.5	A		81.5	A		88.1	A		89.8	A	
		内部（教職員）	㉕生徒は，日頃から挨拶ができている。	26.0	D	48.4	D		40.9	D		23.8	D		44.4	D		30.4	D		27.3	D		31.8	D		34.8	D		76.0	B		83.3	A	
			⑰あなたは，生徒に学校生活のルールを守るよう指導している。	73.0	B	77.4	B		91.3	A		100.0	A		94.1	A		95.5	A		95.2	A		95.0	A		91.3	A		95.7	A		93.1	A	
			⑱あなたは，生徒が規則正しい生活を送ることを心がけるように指導している。	87.0	A	83.9	A		95.7	A		95.2	A		100.0	A		95.5	A		95.2	A		95.0	A		87.0	A		95.8	A		93.1	A	
	教育相談の充実	外部（生徒）	㉗先生は，私の話をよく聞いてくれる。	78.0	B	76.5	B	B	79.9	B	B	74.6	B	A	78.5	B	A	82.6	A	A	73.2	B	A	86.9	A	A	73.5	B	A	84.3	A	A	85.2	A	A
			㉗先生は，お子様にすすんで関わり，話を聞いてくれている。	80.0	A	75.5	B		73.2	B		87.1	A		81.8	A		81.4	A		80.0	A		82.6	A		83.8	A		86.5	A		85.6	A	
		内部（教職	⑨私は，日頃から生徒とのかかわりや教育相談等を通して，生徒を理解するよう努めている。	97.0	A	100.0	A		100.0	A		95.2	A		100.0	A		100.0	A		100.0	A		100.0	A		91.3	A		95.8	A		93.1	A	

No. 2

評価基準　80%未満～60%以上・・B　0%未満～50%以上・・C　50%未満・・D　80%以上・・A

評価領域	評価項目		評価指標	平成21年度		平成22年度			平成23年度			平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度					
												（前期）			（後期）			（前期）			（後期）			（前期）			（後期）			（前期）			（後期）		
				肯定的評価%	評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価	肯定的評価%	評価	総評価
進路指導	自ら将来を展望し目標を持てる進路指導	外部（生徒）	㉘学校は，様々な職業や高等学校についての学習を行っている。	53.0	C	58.4	C	B	73.3	B	B	65.3	B	B	70.0	B	B	67.8	B	B	76.0	B	B	76.1	B	B	76.4	B	B	70.3	B	B	80.3	A	B
			㉙私は，将来の夢や目標を持って生活している。	70.0	B	75.8	B		74.3	B		65.4	B		69.1	B		70.7	B		71.1	B		72.8	B		73.2	B		69.7	B		73.8	B	
		外部（保護者）	⑳学校は，夢の実現に向けて，生徒一人ひとりの適切な進路選択の支援を行っている。									72.2	B		71.5	B		74.9	B		70.6	B		75.6	B		76.0	B		79.1	B		77.8	B	
			●*H23:学校は，生徒一人ひとりの適切な進路選択に向けた取り組みや支援を行っている。*	72.0	B	78.5	B		72.1	B																									
			㉘お子様と将来の夢や目標について話をする。	74.0	B	81.2	A		72.7	B		78.6	B		74.5	B		73.6	B		79.3	B		69.4	B		71.4	B		85.7	A		81.8	A	
			㉙お子様は，主体的に行動している。									65.4	B		67.8	B		72.0	B		77.2	B		69.4	B		70.6	B		82.9	A		80.4	A	
		内部（教職員）	⑳あなたは，キャリア教育を意識し，「個別の教育プラン」を活用して生徒一人ひとりの適切な進路選択に向けた取り組みや支援を行っている。	72.0	B	83.3	A		82.6	A		81.0	A		82.4	A		52.4	C		47.6	D		77.8	B		54.5	C		69.6	B		60.7	B	
			㉑あなたは，生徒が将来を展望し，目標を持って主体的に活動できるよう指導している。	73.0	B	96.8	A		81.8	A		90.5	A		94.1	A		90.5	A		90.5	A		90.0	A		77.3	B		87.5	A		89.7	A	
保護者・地域との連携	学校公開・情報の提供	外部（生徒）	㉚私は，学校であったことや様子を，家庭で家族によく話をしている。	72.0	B	68.2	B	B	65.2	B	B	60.1	B	B	61.3	B	B	62.3	B	B	62.3	B	B	73.4	B	A	70.4	B	A	72.1	B	A	75.4	B	A
		外部（保護者）	④学校は，教育活動の様子や情報をよくわかるように伝えている。	68.0	B	71.1	B		69.8	B		78.3	B		72.3	B		74.2	B		75.2	B		86.3	A		87.0	A		83.8	A		83.7	A	
			㉑学校は，参観授業や公開授業などに，積極的に取り組んでいる。	85.0	A	89.4	A		88.5	A		90.3	A		85.6	A		87.3	A		94.3	A		80.7	A		87.3	A		94.3	A		94.9	A	
		内部（教職員）	㉖学校は，学校だより・学年だより・学級だより・ホームページ・情報メール等を通して，学校の様子を家庭や地域に発信していくように心がけている。	70.0	B	79.3	B		90.9	A		85.7	A		100.0	A		91.3	A		72.7	B		95.5	A		100.0	A		96.0	A		96.7	A	
	地域行事への積極的参加	外部（生徒）	㉛私は，ボランティア活動に関心がある。	70.0	B	53.2	C	A	53.6	C	A	33.1	D	B	40.5	D	B	36.7	D	B	40.5	D	B	51.5	C	B	42.3	D	B	59.2	C	B	57.4	C	B
		外部（保護者）	㉑学校は，ボランティア活動や行事など，保護者・地域・学校との連携を図った活動に積極的に取り組んでいる。	87.0	A	92.9	A		91.0	A		90.3	A		90.7	A		94.4	A		91.4	A		91.8	A		90.7	A		93.9	A		92.8	A	
		内部（教職員）	㉗学校は，地域の行事や祭りへの参加など，保護者・地域との連携を図った活動に積極的に取り組んでいる。	84.0	A	93.1	A		90.9	A		81.0	A		83.3	A		82.6	A		77.3	B		95.5	A		91.3	A		88.0	A		96.7	A	
特別支援教育	特別支援教育	内部（教職員）	㉙特別な支援を必要とする生徒への支援は，全職員で取り組んでいる。	71.0	B	83.9	A	B	100.0	A	B	100.0	A	B	100.0	A	B	87.0	A	A	86.4	A	A	86.4	A	A	87.0	A	A	88.0	A	A	83.3	A	A
			●*H24:私は，通常学級の個別の支援を必要とする生徒のために，個別の教育プラン等を活用し支援できている。*	32.0	D	48.3	D		38.1	D		25.0	D		11.8	D																			
教育環境整備	安全で気持ちの良い学習環境づくり	外部（生徒）	㉜学校の施設・設備は，安全な状態に保たれている。	61.0	B	66.6	B	A	70.5	B	A	54.6	C	B	62.0	B	A	64.6	B	B	64.5	B	A	74.2	B	A	66.3	B	A	68.4	B	A	73.1	B	A
			㉝私は，学校の施設・設備を大切にしている。	90.0	A	91.9	A		88.1	A		84.9	A		88.1	A		83.9	A		89.7	A		94.4	A		90.8	A		90.5	A		91.8	A	
		外部（保護者）	⑤学校は，安全などに配慮して施設・設備を整えている。	84.0	A	86.4	A		87.1	A		81.3	A		83.8	A		78.3	B		81.9	A		81.9	A		80.8	A		83.8	A		82.1	A	
		内部（教職員）	㉘学校は，安全点検を定期的に行い，学校の施設・設備をより安全な状態に維持しようと努めている。	81.0	A	93.5	A		100.0	A		81.0	A		100.0	A		82.6	A		86.4	A		100.0	A		87.0	A		96.0	A		86.7	A	
安全管理	災害時等の危機管理	外部（生徒）	㉞私は，避難訓練などで学習したことを役立てようと思う。（災害・不審者対応など）	78.0	B	81.2	A	A	72.4	B	A	63.8	B	A	62.5	B	A	77.4	B	B	81.1	A	B	87.9	A	A	80.1	A	A	81.9	A	A	81.6	A	A
			㉟私は，常に安全・安心な生活を心がけている。						83.1	A		82.1	A		84.9	A		83.0	A		87.1	A		92.1	A		88.3	A		89.2	A		91.4	A	
		外部（保護者）	㉓学校は，生徒に安全・安心な生活を心がけるよう指導している。	83.0	A	88.6	A		84.1	A		85.5	A		80.5	A		82.3	A		84.2	A		83.8	A		82.5	A		92.2	A		91.8	A	
		内部（教職	㉚学校は，緊急時の対応について指導ができている。	53.0	C	65.5	B		77.3	B		88.9	A		83.3	A		52.2	C		45.5	D		68.2	B		69.6	B		76.0	B		70.0	B	

No. 3

評価項目	平成25年度　具体的な手立て	平成25年度（前期）　評価の分析	平成25年度（後期）　評価の分析	平成26年度　具体的な手立て	平成26年度（前期）　評価の分析
思考力・判断力・表現力の育成	・話し合い活動はすべての教科・領域において取り入れること、話し合い活動の方法を生徒が知り、慣れていくことが、授業の中で「伝え合う力」を育成することにつながっていくと思う。国語科、校内研究の係がタイアップして生徒にとってわかりやすい話し合いの方法を示し、全教職員で取り組んでいく。	・生徒用については、昨年度とほぼ変わらない結果であるが、①の「私は，毎日の授業を楽しみにしている。」の項目がC評価であることについては、謙虚に反省し、改善に努めるべきである。 ・教職員用については、これまでずっとA評価であった①の「私は，生徒の興味・関心を高めるような工夫をして授業を行っている。」の項目がB評価になっており、生徒用の①と考え合わせても、今後改善を図っていくべき課題であると考える。 ・一方、教職員用の⑬「学校は，授業や様々な場面で，話し合い活動を取り入れ，言語活動の充実に努めている。」については、校内研究のテーマを意識してか、B評定ではあるもののパーセンテージは上がってきているので、今後さらに力を入れていくべきである。	・前期にはB評価であった教職員用の①の「私は，生徒の興味・関心を高めるような工夫をして授業を行っている。」の項目が94.4%でA評価になった。また、保護者用の①「学校は，生徒が興味関心を高めるような授業の工夫を行っている。」の項目や生徒用の③「先生は，生徒のために新しいアイディアで，工夫をこらした授業や取り組みを行っている。」の項目も、少しずつパーセンテージが上がってきている。ところが、生徒用の①「私は，毎日の授業を楽しみにしている。」の項目については、前期をさらに下回るパーセンテージでC評価となっている(1年C評価55．6%、2年D評価44．2%、3年B評価66．3%)。生徒の学習意欲や興味関心を、いかにして引き出すかが今後の課題であると思われる。	・生活指導担当と連携し、家庭学習の実態について把握する。 ・休日前に計画的に課題を出すなどして、家庭学習の充実を図る。 ・進路担当や道徳担当と連携して、将来に夢が持てるような取り組みを計画する。 ・ 研修担当と連携し、「学習意欲を高める指導」に関する研修を行う。	・毎日の授業を楽しみにしている生徒の割合が増加している。 ・教職員も工夫をして授業を行ったり，話し合い活動を取り入れて，言語活動の充実に努めるという意識が高まっている。 ・「受信」「思考」「表現」のプロセスを意識しての指導や支援という点では，少し課題がある。
自他を思いやる心の育成	道徳の授業が好きという思いが増えるには、11月の研修でも話題に出たように座席を含めた授業の形態を工夫することや、話し合い活動などを通して自分の考えを発表したり、友達と意見交換したりすることを少しずつ取り入れられたらよいのではと思う。 保護者については、授業内容や生徒の感想などを知らせることができるとなお理解を得やすいように思う。 教職員については、このような取り組みが無理なくすすめられるようにやり方を工夫しながら継続していきたい。	道徳の授業を楽しみにしているということについては、質問が前年と変わっているため単純な比較は出来ないが、評価が低く、改善が求められるところである。2学期以降輪番道徳などを通して授業形態を工夫したり、、話し合い活動を取り入れるなどして生徒が楽しみにできるような授業を心がけたい。 保護者については、高い評価を得ているので、今後も生徒の感想などを知らせる取り組みを継続できるとよいと思う。 教職員について、意欲的に取り組んでいる割合が低く感じられるのは、1学期にはどうしても行事中心の取り組みとなり、道徳の授業に時間をかけにくかったものと考えられる。2学期以降の取り組みに期待したい。	生徒の道徳の授業を楽しみにしているという質問の評価は前期より微増しているが，数字的には高くないので，授業形態や話し合い活動を工夫して，もう少し前向きな気持ちで取り組めるように努力したい。自分や周りの人を大切にしているという項目は，高い評価が出ているので継続したい。自尊感情が育っていれなよいが，自分と周りの人と同じように大切にしているかは再考の余地があるように思う。 保護者の評価は前期より少し下がっているので，80%あたりを維持できるように通信などでPRできるとよい。 教職員については，2つの項目ともかなり高い評価になっている。昨年度に引き続き，道徳に力を入れて取り組んでいることの表れのように思う。	道徳の授業を楽しみにしているという思いが増えるように，まだ授業の形態や話し合い活動の取り入れ方等を工夫することが必要に思う。自分の意見を言うことが楽しいという雰囲気づくりがすすめられるとよいので，協同学習や学び合いの手法を研究していくことも考えたい。 保護者については，昨年度に続いて授業内容や生徒の感想などを知らせることができるとなお理解を得やすいように思う。できるだけ負担が少なく，知らせやすい方法を検討したい。 教職員については，今の状態を継続するとともに，マンネリ化しないように新しい視点も取り入れながら引き続き取り組みをすすめていきたい。	道徳の授業を楽しみにしているということについては，少しずつではあるが数値が上がっており，継続して取り組んでいる効果に期待したいところである。2学期には輪番道徳も予定されているので，引き続き授業形態を工夫したり、、話し合い活動を取り入れるなどして生徒が楽しみにできるような授業を心がけたい。 周りの人を大切にする思いは，高評価が続いている。 保護者の評価は，横ばいではあるもののまずまずの評価を受けている。できれば80%以上になるように，何かプラスアルファの取り組みができるとよいと思う。 教職員については，近年道徳の時間を大切にしようとしてはいるものの，やはり1学期にはどうしても行事中心の取り組みとなり，道徳の授業に時間をかけにくかったものと考えられる。2学期以降の取り組みに期待したい。
特別活動	【生徒会・係活動について】 　整美委員が行った一般生徒を巻き込んで行なった活動のように「可視化」と「巻き込み」を進めていきたい。また、学級においても係の定例活動だけでなく、係生徒を中心として他の生徒と一緒に活動する場面をより増やしてくことで、やりがいや達成感を享受していく。 　充実した活動のために専門委員会の再編成をおこなう。 【部活動について】 　部員それぞれにあった目標・指導・フォローをおこない、主体性とリーダー性を養うと共に、引き続き保護者と懇談や日々の情報交換などを一層進めていき協力体制を築く。また大会・コンクールなど生徒の活躍場面など応援・見学を呼び掛けていく。 　否定的評価と入部率の低下については保護者と連携を取りながら粘り強く対応していくとともに、運動部の受け皿として文化部の新設も考慮していく。	[生徒会・係活動について] 　昨年度よりも生徒の肯定的評価が上昇を見せ、生徒会活動の「可視化」や「巻き込み」が効果を現してきていると言えるのではないか。教職員はこれまでと変わらぬ指導を続けていおり、このことは教職員の思いが生徒に段々と伝わってきていることの表れと言えるだろう。 [部活動について] 　ポイントとしては目立った上昇は見られないが、ここ数年の部活動での優秀な成績が生徒のモチベーションを高め、肯定的評価が8割を越えているのではないだろうか。各種大会の成績を掲示するなど、「活動の可視化」による所も大きいだろう。 　ただ、教職員の意識としては少しの下降が見られ、部活動の存在意義と実施方法等についての確認・個人への負担の集中の軽減等について考えることも必要かもしれない。 [校内美化（清掃）について] 　保護者の肯定的評価は8割を越えており、スクリーン等の行事があったり、懇談等で来校される時に特に汚れているという印象を持たれない程度には清掃ができているということだろう。 　教職員の肯定的評価は6割半であり、あまり清掃に対する意識は高いとは言えない。逆に生徒は8割弱が積極的にできていると考えているようである。教員の意識を高めるための研修等、次の手を考えたい。	[生徒会・係活動について] 　生徒、教職員ともに同じレベルのポイントを得ている。年々ポイントは上昇しており、生徒・教職員共に、積極的に生徒会活動等に取り組もうという姿勢が見られる。今後は、生徒会活動については各委員会から生徒たちの、学校生活におけるやりがいを生むような特色豊かな活動を仕掛けていくことで、さらなる意識高揚を目指したい。 [部活動について] 　生徒・保護者ともにA評価となっているが、教職員については72.2ポイントとB評価にとどまっている。教職員の意識高揚のためにどのような手立てが必要か、もう一度部活動のシステムについて考える必要があるかもしれない。 [校内美化（清掃）について] 　生徒に関しては前期よりも3ポイント上昇し、A評価になっている。生徒会執行部や整美委員会からのアプローチとして特に目立った物はなかったが、一人ひとりの掃除へ対する気持ちが、何らかの要因で高まったと考えられる。しかし教職員の、清掃活動に対する評価は3ポイント上昇しているが依然低く、生徒と教職員の評価のギャップは何が原因なのかを考え、改善策を打ち出したい。来年度の指導の重点等と照らして、全校を巻き込んだ清掃活動等を打ち出していけば、さらに全校の掃除に対する意識が高まるのではないだろうか。	・各委員会から学校教育目標、あるいは指導の重点に照らした活動を1つずつ提案し、来年度の内に実行する（例：整美委員会の放課後清掃等）。 ・部活動顧問の時間的負担の軽減、分担をする（一人で抱え込まない）。 ・生徒会執行部を中心に、毎学期の大掃除の見直し、その他スクリーンやそれに準ずる活動を計画し、実行する。	[係活動・生徒会活動] 　生徒の評価，教職員の評価ともに3～6ポイント上昇している。前年度以前からの改善点といえば、生徒会執行部を中心とした目に見える形での様々な取り組み（アルミ缶回収等）や、各委員会が行う取り組み（朝掃除等）があり、今回のA評価はそれによるところが大きいと考えられる。また教職員も，学校教育目標の下，生徒を主体とした活動への取り組みを多く取り入れ，生徒の意欲・主体性を引き出すことに成功していると考えられる。 [部活動] 　生徒・保護者ともに前年度以前から緩やかにポイントの上昇を見せている。各部活動の保護者説明会ではその部の方針等，保護者が知りたかった情報を提供でき，また，生徒の活躍をホームページや校門付近へ掲示したり，全校集会で表彰したり等，生徒のやる気を出させる工夫も多くなされたためだと考えられる。教職員については，平日・休日に関わらず，部活動の監督を複数で担当することによって時間的な負担が軽減されたことで，より質の高い指導が可能となったことが，ポイント改善の理由ではないだろうか。 [清掃・掲示物の整備] 　生徒は清掃時間を有効に活用して真剣に取り組んでおり，その結果，保護者にも清掃が行き届いているとの評価を得ている。 　教職員については，二学期から始まる自問清掃を前に，清掃に対する意識が高まっていることもポイント上昇の理由の一つであろう。また，各専門委員会による掲

基本的な生活習慣の定着	弁当の日（来年度からは食育担当へ移行させる） チャレンジカード 世のため人のために運動 輪番道徳 の4本柱をしっかりと行いたい。やることを増やすのではなく、しっかり行うことに力を入れる。（精選する） 特に、輪番道徳は生徒指導面からも大変期待される取り組みであり、実施項目も検討したい。 また、教員主導から生徒主体へシフトさせ、生徒の活躍の場も多くさせる。 保護者ボランティアとも協力して学校、家庭、地域での取り組みにしていくことも行いたい。	〇外部（生徒） 学校生活が楽しく送れている生徒が増えている。 各項目で大きな伸びは見られないものの、挨拶やルール・マナーを守ることによって、人間関係が上手くいっている生徒が多いのではないかと考えられる。 弁当の日や食育指導によって、食事への意識が高まっていることが分かる。 〇外部（保護者） 昨年度末から比べると、規則正しい生活を送れる生徒が増えている。 〇内部（教職員） 生徒自身に挨拶をしているという意識はあるものの、教員側からみるとまだまだのよう。 規則正しい生活を心がけるように指導する意識はあるが、徹底できていないところもあるようなので、根気強くきちんと指導していく必要がある。	〇外部（生徒） ほとんどの項目で前期より上昇している。 学校生活や日々の生活では，充実しており，規則正しい生活が送れている感じている生徒が多い。 〇外部（保護者） 前期と大きな変わりはない。 日々，安定した生活が送られている感じられていると思われる。 〇内部（教職員） 積極的な指導を進めている。 生徒が感じているほどあいさつはできていないと感じている。 →生徒自身の感じ方と周り（保護者，教員）の感じ感じ方に差がある。	〇基本的習慣の徹底 ・あいさつ，時間，服装，当番活動など，それぞれをきちんと行わせることを全教員で確認。 ・チャレンジカード，あいさつ運動の活用 〇相手を思いやる気持ちを持たせる ・道徳授業の充実 ・世のため人のために運動	生徒，教職員はあいさつや早寝早起きなどの生活習慣の定着に向け意識をしているが，保護者からみると，生徒ほど定着感がないようだ。 ルール・マナーについては，日々の積み重ねが少しずつ現れてきていることがわかる。 教職員があいさつをきちんと行うことから，生徒が進んであいさつできる状況を作っていくことが必要であると考えられる。 半分以上の生徒が，地域とのつながりを持ち，活動ができている。
教育相談の充実	今年度と同様に3年生は担任が中心、他学年は希望制の教育相談を継続したい。また、担任の先生がしっかり生徒と関わる時間を増やすためにその他の仕事を軽減するなども工夫して行いたい。（手立てのスリム化）	生徒、保護者とも8割を越える評価を得ている。担任の先生を中心に、教育相談の時だけでなく、普段の声かけや生活ノートへのコメントなどにより、人間関係が構築されていると思われる。	生徒は73%、保護者は80%が肯定的な意見である。前期に比べて生徒の方は9ポイント下がっている。各種行事でゆっくりとした時間が取れなかったことや、注意受ける場面が1学期に比べて増えたことも影響しているかも知れない。	日々の中で生徒と会話をする時間を増やす。担任の負担を軽減して、生徒と直に関われる時間を確保する。	すべての項目において高い評価になっており、日頃の担任を中心とした関わりがよいと言える。今の状態を維持すること手立てを考えていきたい。

No. 4

評価項目	平成25年度　具体的な手立て	平成25年度（前期）　評価の分析	平成25年度（後期）　評価の分析	平成26年度　具体的な手立て	平成26年度（前期）　評価の分析
自ら将来を展望し目標を持てる進路指導	○一学期から教育プランを意識的に活用する。 ○「夢」をテーマにした道徳を取り入れる。 ○講演会など、自分の将来を考えるための取り組みをする。 ○学年通信・学級通信などで取り組みを保護者に知らせる。	●生徒の意識は学年が上がるにつれて高くなっている。これは3年間の見通しを持った学習計画がすすめられている成果ではないか。 ●「夢を持たせるキャリア教育」という指導の重点をふまえ、学年通信等で情報提供に取り組んだ結果として、保護者への意識の高揚につながっていると考えられる。 ●教職員の中で「教育プラン」の活用が不十分であり、教育活動の中に定着していないことが考えられる。	●70～80%の生徒・保護者が肯定的な意見を持っている。これは校外学習や進路学習の取り組みの効果が生徒・保護者の良い手応えとして受け取られている成果ではないかと考えられる。 ●教育プランは夏休みまでにほぼ完成し、2学期から今まで活用する時期があまりなかったと考えられる。	●今年度も来年度以降も常に3年間の見通しを持ったキャリア学習の計画・実施をしていく。 ●取り組んでいる学習について学年通信等で積極的な情報提供に努める。 ●教育プランについて、教育相談や個人懇談の中の活用だけでなく、日々の生活状況をメモ帳代わりに記入していくものにするなど、いつも手元に置いておく存在にしていく必要がある。	○生徒の進路選択に対する意識および学校の指導に対する評価は、少しずつではあるが確実に高まっている。各学年における校外学習や進路学習への取り組みの成果が出ているのではないかと思われる。本年度3年生のオープンスクールへの参加数がかなり増加したのもその現れと思われる。 ○生徒の意識向上に反して、生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場が減少傾向にあるのではないかと感じられる。 ○生徒一人ひとりの適切な進路選択に向けての教職員の支援に「個別の教育プラン」が少しずつ活用され始めていると感じられる。
学校公開・情報の提供	【活動の様子や情報】 保護者が，学校の情報を入手する方法は我が子との会話である。しかし，家庭での会話が減っている現状を解決することが必要である。 ＜保護者＞ ●我が子への会話のアプローチを意識してもらう。 ●時間の共有による時間の確保をしてもらう。 ＜学校＞ ●保護者への啓蒙（懇談会等を利用） ●電話等による家庭連絡による情報提供（良いことを伝える意識） ●情報メールの有効利用 （部活動・学級・学年からも情報を流すことで，その必要性を保護者に感じてもらうことで，情報メール登録者数を増やし，学校の情報を受信してもらう。）　→教職員の情報メール活用研修	【授業参観・公開】 ●目に見える形としての適当な時期・回数により，高い評価を得ている。後期は，土曜授業も2回あり，さらに高い評価が期待できる。 【情報発信】 ●生徒の家庭での会話がまだまだ少ない状況にある。その大きな要因は，中学生という年齢的な問題が大きいと考えられる。傾向としては，3年生は70ポイントと会話の機会が比較的多く，進路の話題があるためと考えられる。 ◆行事後の情報を家庭により多く発信し，家庭での話題提供により一層努めていくことが必要である。 ●情報発信者としての教職員は91ポイントと高評価なっている。問題行動への多忙さの中で学級通信・学年だより等の努力意識によるものと考えられる。一方で保護者との評価は教職員より17ポイント低くい。（1年：68p，2年：74p，3年：80p）しかしながら，H24年度から導入した情報メールの効果により，保護者の評価も安定はしてきている。　◆保護者との格差を無くすためには，Ⅰ情報メールを有効利用すること（①数多くの情報発信，②部活動・学級・学年からの情報発信　→　教職員の使用増加　→　必要性からくる保護者登録者増加），Ⅱ配布物の伝達の工夫	【授業参観・公開】 ○目に見えるかたちとして適当な時期・回数により，保護者から94ポイントの高い評価を得ている。前期よりも7ポイントも高い要因は，休日参観・土曜授業の実績と考えられる。 【情報発信】 ①生徒が家庭で学校の話しをする割合は，62ポイントと昨年度とあまり変化が見られず，家庭での会話の少なさに不安が残る。中学生という年齢的な問題が大きいと考えられるため，親からの話しかけが必要と考えられる。 ②情報発信者である教職員は，前期アンケートでは91ポイントと高い意識であったものが，後期アンケートでは73ポイントと18ポイント下がっている。9～10月の時期での学校行事の多忙さの中で意識が前期と比べて希薄になったのではないかと考えられる。 ③保護者の評価は，ここ数年来75ポイントあたりの肯定的な評価で安定してきている。しかし，4人に1人が否定的と考えると，まだ不十分であり，90ポイント以上を目指し学校を理解してもらいたい。また，学年別では，1年生：77ポイント，2年生：67ポイント，3年生：80ポイントと学年格差も大きい傾向にある。	【情報発信】 ①行事や学校生活の様子の情報を家庭にタイムリーにより多く発信し，家庭での話題の提供に努めることで，家庭での親と子の会話の橋渡しをする。 ②勤務多忙の中ではあるが，保護者の立場でどのような情報が受信したいかを意識し，1年間を通してコツコツと情報を打ち続ける。 ③Ⅰ情報メールを有効に活用する。 （ア：多くの情報をタイムリーに！イ：部活動・学年・学級から） →必要性からくる保護者の情報受信へ Ⅱ配布時の伝達の工夫（担任の一言）	【授業参観公開】 肯定的評価ポイントが，ここ数年で最低値になっている。特に1年生保護者は68.8ポイントと他学年を大きく下回っている。（2・3年生平均値87.4ポイントは前年度前期並の数値である。）その要因としては，1年生保護者の評価の基準が小学校との比較の中で判断していることが考えられる。また，全体的には，今年度前期までの公開が4月の参観日だけであり，しかも内容が清掃活動であったことで，保護者のもつ参観授業＝普通授業の固定観念からすれば公開のイメージにはならなかったと考えられる。後期は，土曜授業（普通授業）もあり，さらに1年生保護者も中学校の様子にも多少慣れてくると思われるため，肯定的評価が高くなると考えられる。 【情報発信】 保護者と教職員の肯定的評価意識の格差は，昨年度前期と比較して17ポイント差から9ポイント差まで縮まってきている。その成果として，次の点が考えられる。〔1〕保護者アンケート質問文で発信内容を具体化して表記したこと。〔2〕生徒が家庭で学校の様子を話す機会が多くなっていることで，学校からの発信内容が保護者にとってより明確になっていること。（家庭での会話肯定的評価：昨年度より11ポイントアップ）〔3〕情報メール登録者数の増加とタイムリー且つ有効な発信をしていること。〔4〕ホームページをグレードアップしたこと。
地域行事への積極的参加	昨年度と同様、道徳などの時間を通して、ボランティアの意義などについて理解を深めていく活動をすることが効果的なのではないだろうか。 来年度の道徳係の先生に、年間指導計画作成時には考慮していただけるように手配したい。 学校主催のボランティアや行事などについて、今年度より始まった妹尾中メールを活用して、保護者への周知徹底をはかることで、保護者のさらなる理解を得られるものと考えている。 職員研修等を通じて、ボランティア活動の意義や道徳でボランティア活動等について取り扱う際の指導案づくりに関するワークショップなど、教職員自らがが考える場を設定することにより、こういった活動へのさらなる理解・参加が促され、生徒に指導する際の経験や基礎知識を得ることができるのではないだろうか。	○生徒では全体としてボランティア活動への積極的参加は低迷している。参加しやすい清掃ボランティアが少なかった。周知活動や活動の様子を掲示するなどし意識の高揚を高める必要がある。また、生徒会と協調して取り組ませ、証明書の発行も迅速化したい。 ○保護者は高い値を示している。今後も協力をはかり取り組んでいく。 ○教職員は80ポイントを超えて高い評価が続いている。 ●今年度の手立ての道徳とのリンクまた職員研修などでの活動ができていない。	①生徒のボランティアに対する参加意識は40%前後で推移しており、大きな変化はない。生徒会執行部やその他リーダーとなる生徒の自主的参加を促し、その他の生徒の意識を上げていく必要がある。 ②保護者は90%を越え学校側の活動に理解を示している。今後も地域行事などで積極的に参加していきたい。 ③教職員の地域行事や祭りなどでの連携は5ポイント下がっている。休日や夜間の補導など勤務時間外での活動であるため、参加できる教職員が限られてしまう傾向にあることが理由のひとつと考えられる。	①生徒 ・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。 ・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。 ・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リピーターを増やしていく。 ②保護者 ・通信やHPなどで保護者にも参加の様子を伝えるようにする。 ③教職員 ・参加が負担に成りにくいような参加体制を整えると同時に、今後も学校と地域との良好な協力関係を保っていくためにも意識の改善も必要と考える。	①生徒 ・ボランティアの広報活動や委員会などのタイアップ効果により、参加意識は10P以上上がった。今後も生徒会執行部や委員会、部活動などリーダーとなる生徒の自主的参加を促し、リピーターを増やす。同時に、周囲の生徒を巻き込んでいけるような雰囲気、環境をさらに整えていく。 ②保護者 ・90%を越え学校側の活動に高い理解を示している。通信やHPで活動の様子を伝えるとともに、地域行事などで活動の見える化を進めていきたい。 ③教職員 ・地域行事や祭りなどでの連携は15ポイント上がり高い値を示している。新任者の方の参加や部活などでの参加協力での参加が大きいためと考えられる。休日や夜間の補導など勤務時間外での活動が多いため、負担にならないようにし、継続的に参加しやすい職場の雰囲気や環境を整えていく。
特別支援教育	生徒の実態や対応の仕方について、職員会議や朝礼などの機会をとらえて伝えることで、全教職員で共通理解し、支援を行う。 特別支援教育の研修を行う。 教育プランの活用の仕方について、委員会で再考する。	特別支援学級だけの生徒に対しての支援に比べると数値は下がったが、普通学級の特別な支援を要する生徒への支援体制は、以前と比べてずいぶん整ってきている。引き続き学級担任や学年を中心に、家庭、諸機関と連携しながら全教職員で全生徒の指導にあたっていく事が大切である。	前期と質問の表現を変えて、全校生徒を対象としていることをはっきりさせたが、数値はほぼ横ばいであった。明らかに以前に増して特別支援に対する認識が教職員の中に浸透していることがわかる。個別の教育プランの考え方が徐々に浸透してきつつあるのではないか。しかし、ここから先の数値の伸びがなかなかむずかしく、課題である。	●特別支援教育コーディネーターを中心にして、校内のスクールカウンセラー、特別支援教育支援員、不登校児童生徒支援員等を効果的に活用するとともに、校外の様々な関係機関との連携を密にする。 ●個別の教育プランの流れを年度初めに確認しあって継続する。 ●発達障害についての知識や生徒との接し方についての認識が深	
安全で気持ちの良い学習環境づくり	安全点検をきちんと行い、修繕箇所へは素早く対応する。トイレなどの老朽化への施設修繕にも予算を考慮しながら対応していく。	生徒・保護者とも学校の施設・設備の安全に対する評価は、ほとんど変わっていないが、教職員評価より低い状態が続いている。見た目の印象が満足できる状態でないと言える。	施設・設備の整備に対する評価は、前期と比べ高くなっている。生徒評価は65%と依然低いのは、設備面でまだまだ古いものを使用しているからと思われる。故意による破損はほとんどなく、良い利用状態である。	・毎月1回の安全点検の完全実施 ・生徒によるプランター整備や掲示物づくりを推進に、より環境に対する意識を高める。	・生徒の「私は，学校の施設・設備を大切にしている。」という評価が，昨年度より6パーセントの向上が見受けられる点については，本年度の学校の重点の柱でもある「整美，美化活動を通じて心を磨く」という意識が実践活動の中で定着しつつあると思われる。 ・学校全体の学習環境課に向けての教職員の意識レベルは高い。教室，廊下の整美，美化や掲示物の工夫などにそれが見受けられる。今後，保護者や地域との連携の仕方を工夫したり，生徒会や委員会，ボランティア活動を校外へ広げたり，広報していきながら，「自分たちの学校」「地域の学校」という意識の中で，行事運営や活動を推進していくと，さらにより良い連動が生じると思われる。
災害時等の危機管理	南海・東南海地震を想定した防災教育（地震・火災）を計画しなければならない。また，中学生は被災者を助ける役割をになう教育も必要である。 今年度行われた公民館講座の防災ボランティア体験への積極的な参加を促す手立てを考えたい。	教職員の災害時対応や登下校の安全につての指導に対する評価が著しく低下した。登下校を含めた学校生活全般を通した安全指導の研修が必要である。	前期及び前年同時期と比較してみても生徒・保護者の安全・安心に対する心がけは高くなっている。学級活動での安全指導が意識向上につながっていると思われる。それに対し、教職員に関しては、災害時への対応等に対する意識は50%を切っている。教職員としていざというとき具体的にどのように行動したらいいかという点に関しては、今後の課題である。	・災害や緊急時の対応マニュアルんついて全体確認を行う。 ・避難訓練は前年度の踏襲にならないよう工夫を凝らす。	・年々，生徒の災害時や不審者対応など，安全に向けての意識の向上がうかがえる。昨年度の同期よりは約10%，一昨年度よりは，約20%の数値が向上している。この点については，学校での避難訓練や学活，道徳などの学習を通じての話や社会情勢に応じた家庭，地域での災害時などの対応についての機会に応じての話や防災事業などの推進が効果的に働いていると思われる。 ・保護者の防災や安全についての意識は年度によらず，平均的に高い。 ・教職員側の防災，安全についての指導対応が，昨年度と比較して向上しているものの，まだ低い現状が見受けられるため，防災，安全に関する意識向上と具体的な実践に役立つ研修が必要である。また，日頃より危機意識を常に相互に意識する互いの声かけや安全管理の具体的な施策が必要であると考える。

平成27年度（前期）　評価の分析	平成27年度（後期）　評価の分析	成28年度　具体的な手立
道徳の授業が生活に役立っていると感じている生徒が7割近くになり、さらに人を大切にしているという項目については9割を超えていることは現在の道徳教育が良い方向に向かっていると考えられる。心磨き清掃なども関係していると思われる。今後も日々のあらゆる場面で人間形成を視点に教育活動を展開していくことが求められていると考えられる。教職員の道徳の授業への取り組み度が低いのは前期が学校行事に追われていることが考えられる。後期は輪番道徳もあるので好転すると思われる。		

全て高い評価になっている。日頃からの人間関係がよいことがうかがえる。後期もしっかりと生徒と向き合い、寄り添い、共に学ぶ姿勢で関わることを継続させたい。		

学校自己評価構築シート

平成27年度（前期）　評価の分析	平成27年度（後期）　評価の分析	成28年度　具体的な手立